たけた竹灯籠 竹楽 25周年記念

樋口了一コンサート

RYOICHI HIGUCHI CONCERT

2024. 3/2 [sat]

16:30〜18:30（16:00 開場）

竹田市総合文化ホール
グランツたけた　廉太郎ホール

全席自由席 / 3,000円（税込）
【チケット販売所】グランツたけた / 竹田市城下町交流プラザ

第一部　樋口了一コンサート　featuring 古澤 剛
第二部　藤村忠寿 / 嬉野雅道トークショー
（岡の里名水マラソン壮行会）

【問合せ先】 NPO法人　里山保全竹活用百人会　TEL0974-63-2638

主催　NPO法人里山保全竹活用百人会 / 共催　竹田市まちづくり実行委員会 / 後援　竹田市・竹田商工会議所

「邂逅（かいこう）」～開催に際して～

ＮＰＯ法人里山保全竹活用百人会と樋口了一氏との関係は２０年近く前にまで遡ります。

当初から、竹楽のサブタイトルである「竹・光・音・出逢い」の音を担当しているのは、樋口了一氏を核としての街角コンサートであり、プロのミュージシャンでありながら、お隣、熊本県出身で（株）トキハとのご縁、そして、氏がエンディングテーマ曲を担当した北海道テレビ「水曜どうでしょう」と姫だるま工房さんとの関係性もあり、大分県竹田市を愛して下さり、毎年薄謝程度の予算の中で、公演を行ってくれていました。

しかし、１０数年前に街角コンサートの予算措置が出来なくなり、プロの方々をお断りする中で、ただ一人、すべて無償で毎年出演を続けて下さっています。その間、日本レコード大賞の優秀作品賞等を受賞という慶事もありましたが、現在はパーキンソン病と闘いながらも、精力的に活動をされています。

竹楽が２５周年を迎える節目にあたり、永年の氏のご献身に感謝の意を伝える機会を設けたいとの思いで、当市での初のホールコンサートを企画いたしました。

また、全国的にも有名な同番組のご縁が「岡の里名水マラソン」とも繋がり、こちらへも毎年参加されておられる、ディレクター陣の藤村忠寿氏と嬉野雅道氏が第二部のトークショーを行って頂ける事となり、北海道から遠く離れた竹田の地で、「水曜どうでしょう」のメンバーが集い、竹田の魅力を語り、歌うという、全国のファンならずとも垂涎のひと時が実現します。

樋口 了一

シンガーソングライター。熊本県出身。93年「いまでも」で東芝EMIからデビュー。「1/6の夢旅人 2002」はインディーズながらCD15万枚を売り上げ、「手紙～親愛なる子供たちへ～」は16万枚を超えるヒットとなる。アーティスト活動のかたわら、SMAPや郷ひろみさん、石川さゆりさんや中島美嘉さんなどに楽曲を提供。代表曲「手紙」が大きな反響を呼んだ時期と重なるように病に侵され、その後パーキンソン病と判明。現在は病気と向き合いながら活動を続けている。竹楽では、その功績から「名誉化粧師」の称号を保持する唯一の存在である。

古澤　剛

大分県竹田生まれ。高校3年生の時に「一番搾り」というバンドを結成し、高校生ロック選手権でグランプリを受賞。高校卒業後、福岡で5年間過ごし、ライブハウスなどで活動後、25歳で上京。インディーズにて2枚のアルバム「BIRTH-DAY」、「Dear My Friend」をリリース後、テイチクエンタテインメント・TAKUMI NOTEよりメジャーデビュー。シングル「仲間だろ」「Color」「キミノチカラ」「天の川」等、精力的に発表を続ける。竹楽では、ワンマンライブはもちろん、樋口氏のサポートとしてもお馴染みの存在。

藤村　忠寿

『水曜どうでしょう』ディレクター。愛知県出身。愛称は「藤やん」。

90年に北海道テレビ放送に入社。96年にチーフディレクターとして『水曜どうでしょう』を立ち上げる。番組にはナレーターとしても登場。大泉洋主演『歓喜の歌』、安田顕主演『ミエルヒ』など複数のドラマの演出を手がけ、2019年日本民間放送連盟賞テレビ部門グランプリとなった『チャンネルはそのまま！』では演出のほか、小倉虎也役として出演している。著書も多数。ひげマラソン部を主宰し「岡の里名水マラソン」の常連。

嬉野　雅道

『水曜どうでしょう』カメラ担当ディレクター。佐賀県出身。愛称は「うれしー」。

『歓喜の歌』ではプロデューサーを、『ミエルヒ』では企画・プロデューサーを担当。同ドラマはギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、文化庁芸術祭賞、テレビ・ドラマ部門優秀賞など多くの賞を受賞した。また、HTB開局50周年ドラマ『チャンネルはそのまま！』ではプロデューサーを務めた。

著書多数。藤村忠寿との共著に『仕事論』(総合法令出版)、『現在地』(烽火書房)など。昨年3月には藤村氏と竹田市城下町交流プラザでトークショーを開催。